

2
ヨシユア
聖徒伝 60

「主の戦いに 押し出されて」

ヨシュア記4～6章 エリコ陥落

【今日のアウトライン】

0. イントロダクション

I. 主の業を記念して 4章

II. 割礼と土地の産物、主の将軍 5章

III. エリコ陥落 6章


IV. まとめと適用

主の戦いを戦うために
求める一つのこと



【無垢の時代】

天地創造



【良心の時代】

堕罪
~大洪水



【人類統治の時代】

バベルの塔事件



【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ



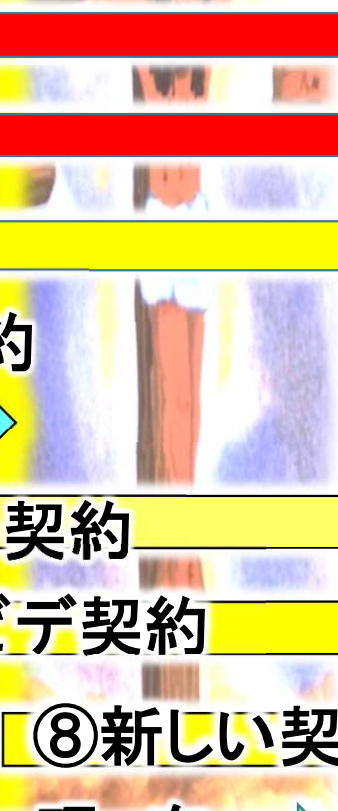
【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨



【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨



【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地



①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

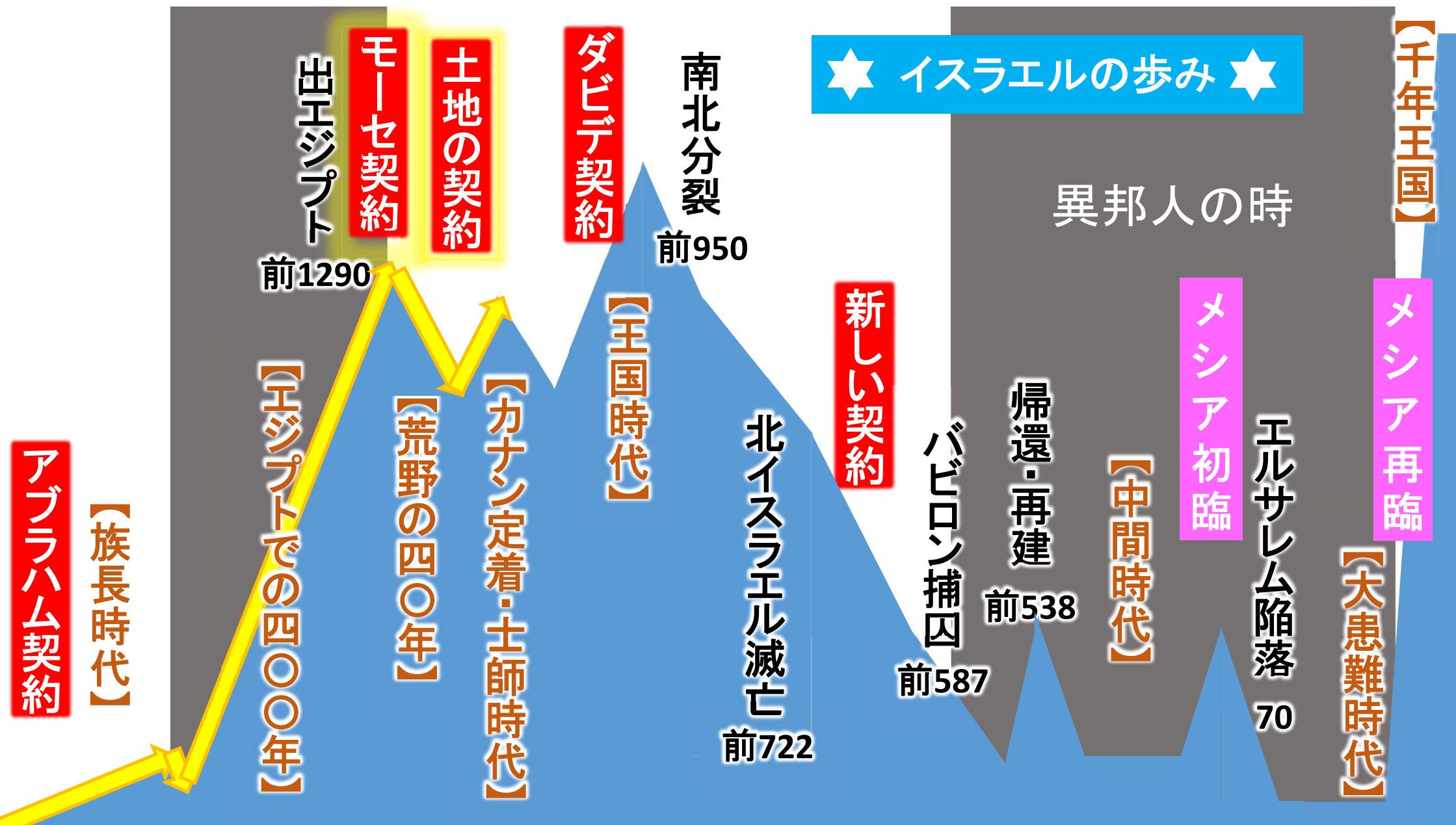
⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去 → 現在 → 未来

★ イスラエルの歩み ★



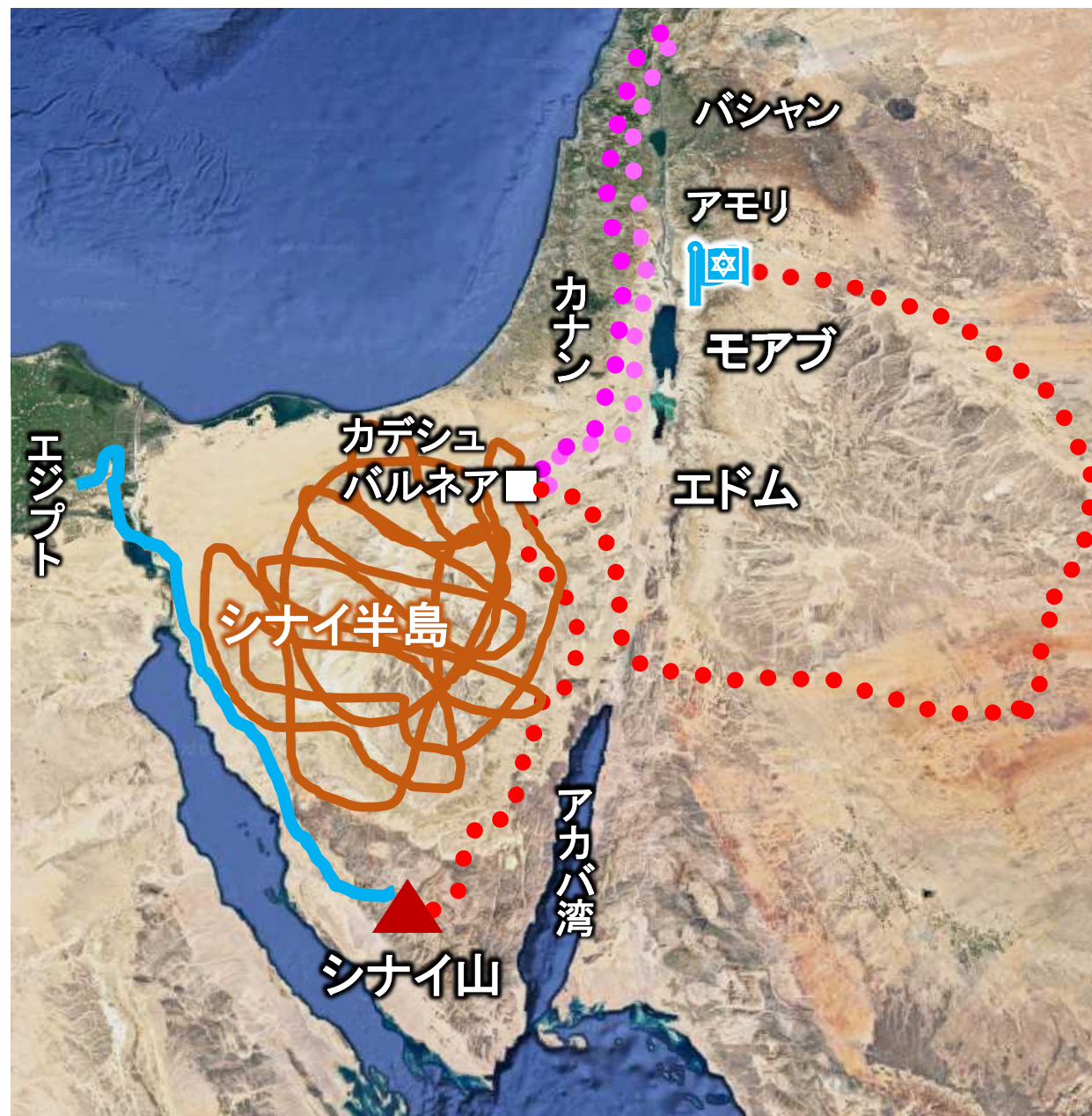
【イスラエルの荒野の40年】

■ エジプトを脱出、シナイ契約を結び、律法を与えられ、神の民となったイスラエル。

■ しかし、神に反逆し、その世代の者は、荒野で死に絶えた。

■ 40年の放浪の末、約束の地ヨルダン川東岸に到達した。

■ カナンの東部を征服し、いよいよヨルダン川を渡る。



【ヨシュアのプロフィール】

- エフライム族出身(民13:8)。主エジプトの時、40歳。
- モーセの従者(ヨシ1:1)。モーセから訓練を受けた。
- 最初の戦い(vsアマレク)で指揮を執った(出17章)。
- モーセと共にシナイ山に上った(出32:17)。
- ホセア(救い)からヨシュア(主は救い)へ改名(民13:16)
- カデシュ・バルネア事件では、12人の斥候の一人として約束の地に派遣。カレブと二人、進軍を訴えた。この二人だけが約束の地に入ることを許された。
- 80歳で、モーセの後継者となった。
- 110歳でその生涯を終えた。



【イスラエル、ヨルダン川を渡る】

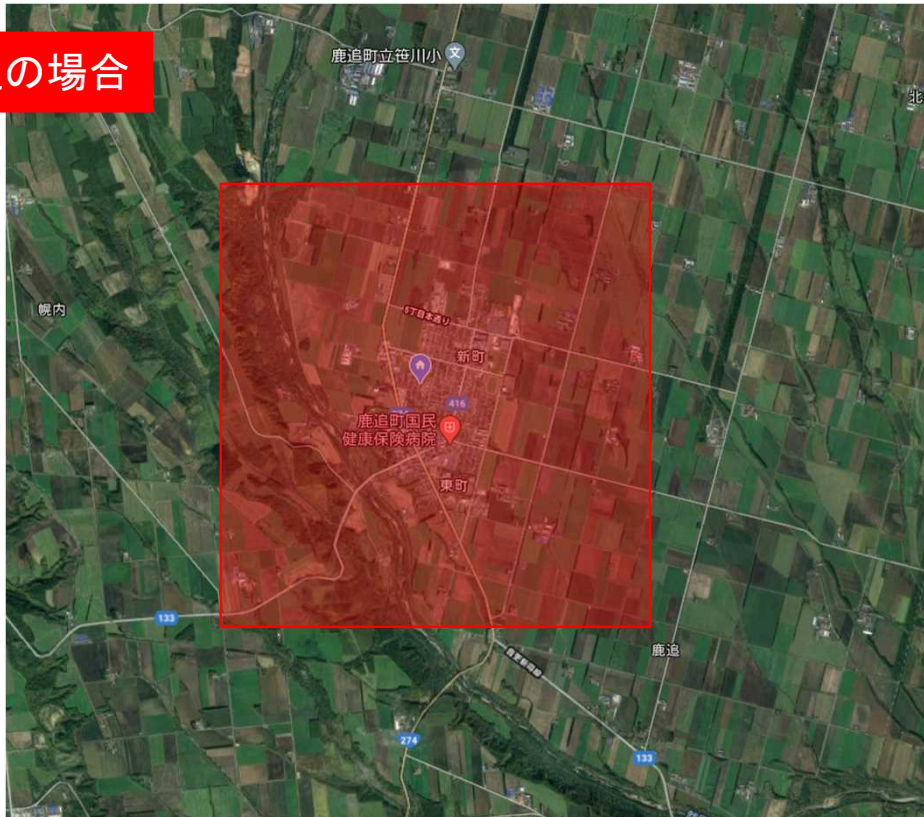
- 主はヨシュアに、イスラエルの背教と流浪をも予告していた。恐れがないわけがない。
- 「強く、雄々しくあれ」と主はヨシュアを励ました。
- 契約の箱を先頭に、祭司が川に入った時、ヨルダン川は、せき止められた。
- イスラエルは、乾いた川底を歩いて渡った。40年前の出エジプトの再現だった。
- 新世代のイスラエルは、父祖の味わった奇跡を追体験し、いよいよ約束の地へ入っていく。



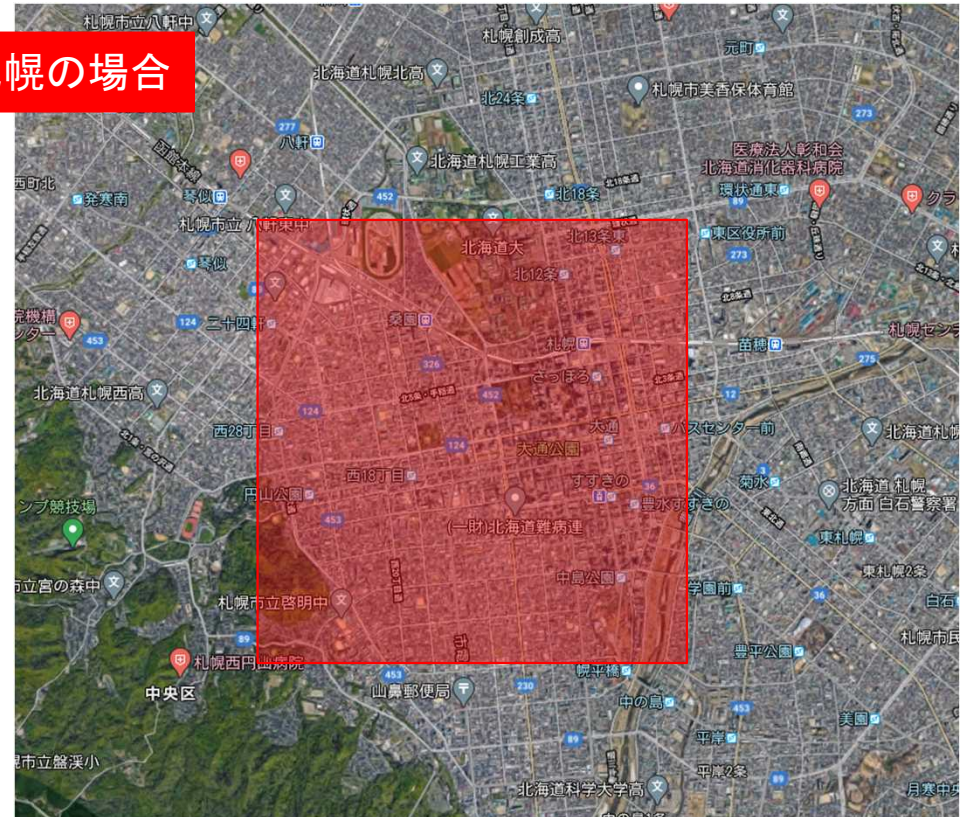
イスラエルの民の野営の面積は？

60万世帯 × 1世帯 × 36m²(10坪) = 21,6km² 約4,6km四方

鹿迫の場合



札幌の場合



エリコ～ヨルダン川の辺りでは？



エリコ～ヨルダン川の辺りでは？

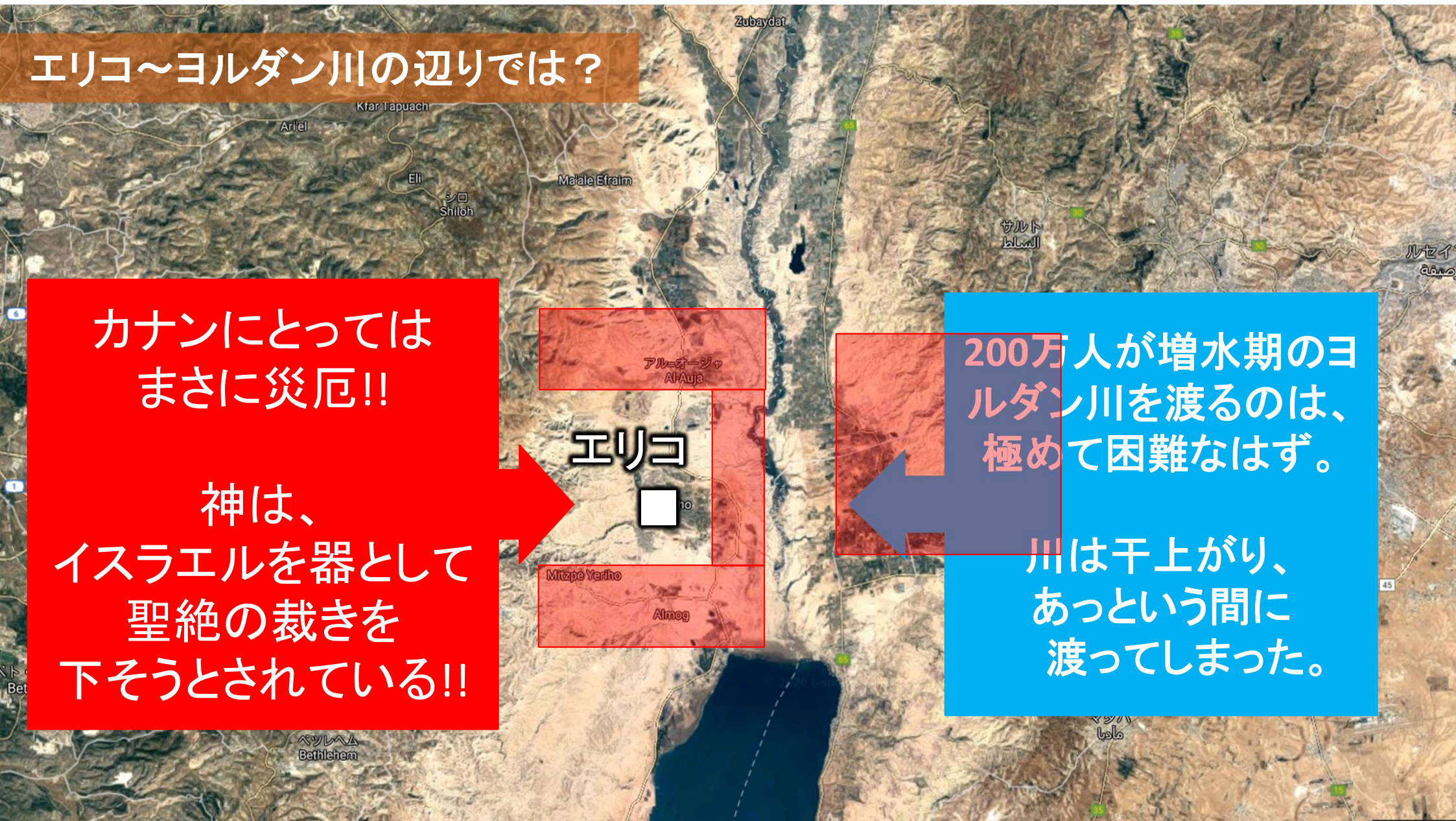
カナンにとっては
まさに災厄!!

神は、
イスラエルを器として
聖絶の裁きを
下そうとされている!!

エリコ

200万人が増水期のヨ
ルダン川を渡るのは、
極めて困難なはず。

川は干上がり、
あっという間に
渡ってしまった。



I. 主の業を記念して

ヨシュア記4章

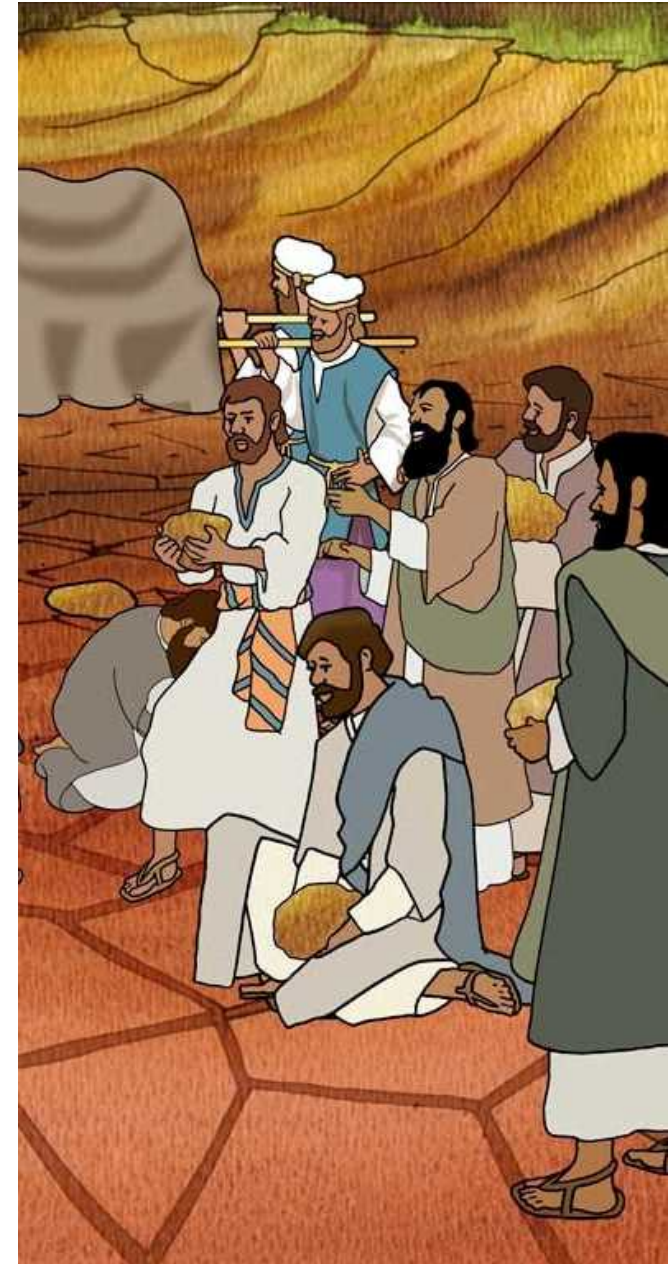


【呼び出された12人】 ヨシュア4:1～4

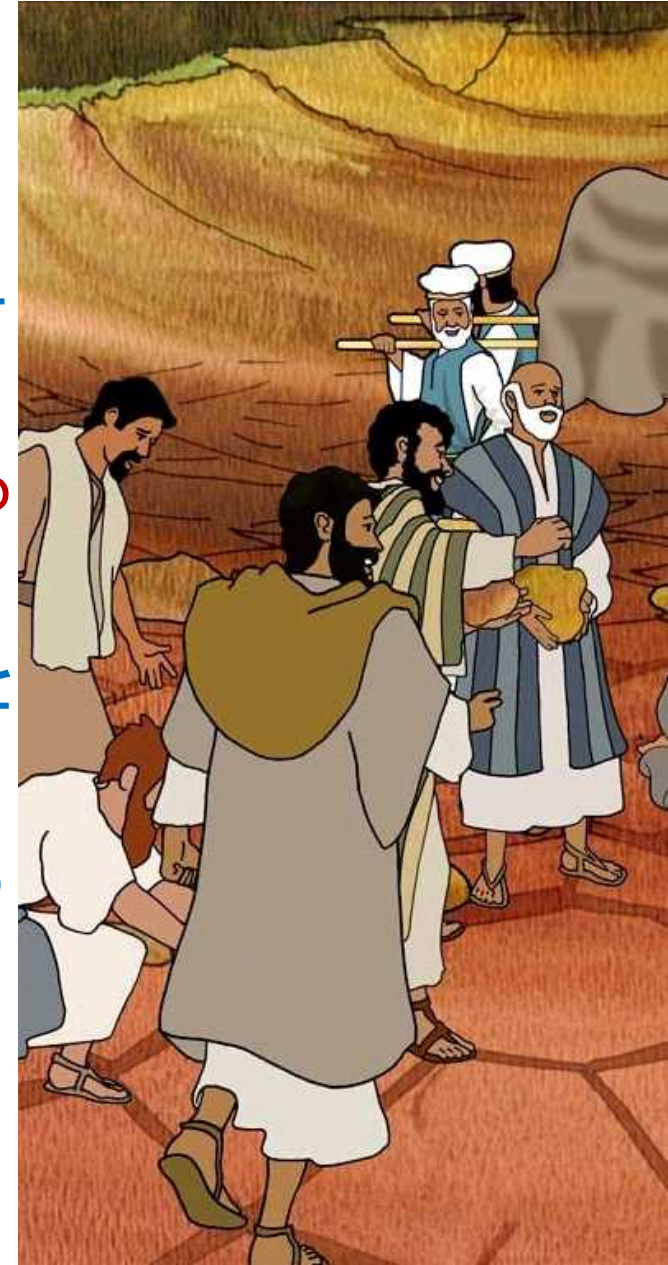
民全員がヨルダン川を渡り終わると、【主】はヨシュアに告げられた。

「民の中から部族ごとに一人ずつ十二人を取り、その者たちに命じよ。『ヨルダン川の真ん中、祭司たちが足をしっかりととどめたその場所から十二の石を取り、それらを携えて渡り、あなたがたが今夜泊まる宿営地に据えよ。』」そこでヨシュアは、イスラエルの子らの中から部族ごとに一人ずつ、あらかじめ任命しておいた十二人*を呼び出した。

* 十二部族のリーダーたちだろう。



【ヨルダン渡河の主の記念のしるし】 ヨシュア4:5~7
ヨシュアは彼らに言った。「あなたがたの神、【主】の箱の前、ヨルダン川の真ん中へ渡って行き、イスラエルの子らの部族の数に合わせて各自が石を一つ、その肩に担ぎなさい。それがあなたがたの中で、しるしとなるようにするためだ。後になって、あなたがたの子どもたちが『この石はどういうものなのですか』と尋ねたとき、あなたがたは彼らにこう言いなさい。『ヨルダン川の水が【主】の契約の箱の前でせき止められたのだ。箱がヨルダン川を渡るとき、ヨルダン川の水はせき止められた。この石はイスラエルの子らにとって永久に記念となるのだ。』」。



【記憶された主の御業】 ヨシュア4:8～9

イスラエルの子らはヨシュアが命じたとおりにした。*

【主】がヨシュアに告げられたとおり、イスラエルの部族の数に合わせて、ヨルダン川の真ん中から十二の石を取り、宿営地に携えて行って、そこに据えた。

これらの十二の石はヨルダン川の真ん中で、契約の箱を担いだ祭司たちが足をとどめた場所にあったもので、ヨシュアがそれらを積み上げたのである。それらは今日までそこにある。

*ヨシュアは、主に従い、民はヨシュアに従う。

➡神への従順が、カナン攻略の最大のポイント!!



【確立されたヨシュアの指揮権】 ヨシュア4:10～14

箱を担ぐ祭司たちは、民に告げるようにと【主】がヨシュアに命じられたことがすべて終わるまで、ヨルダン川の真ん中に立ち続けていた。すべてモーセがヨシュアに命じたとおりである。その間に民は急いで渡った。

民全員が渡り終えた後、民が見ている前で【主】の箱と祭司たちが渡った。

ルベン人とガド人と、マナセの半部族は、モーセが彼らに告げたとおり、隊列を組んでイスラエルの子らの先頭を進んで行った。

このようにして、武装した約四万の軍勢*は【主】の前を、戦いのためにエリコの草原へと進んで行った。

その日、【主】は全イスラエルの目の前で、ヨシュアを大いなる者とされた。それで彼らは、モーセを恐れたように、ヨシュアをその一生の間、恐れた。*



精鋭部隊が前線へ!!



ヨシュアは、名実共に民の指導者に!!

【契約の箱が、最初で最後】 ヨシュア15～19

【主】はヨシュアに告げられた。「ヨルダン川から上がって来るよう、あかしの箱を担ぐ祭司たちに命じよ。」
それでヨシュアは祭司たちに「ヨルダン川から上がって来なさい」と命じた。

【主】の契約の箱を担ぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中から上がって来て、祭司たちの足の裏が水際の乾いた陸地に上がったとき、ヨルダン川の水は元の場所に戻り、以前のように、川岸いっぱいに満ちて流れた。
さて、民は第一の月の十日にヨルダン川から上がって、エリコの東の境にあるギルガルに宿営した。



この戦いの先陣を切るのも、しんがりを守るのも、主ご自身!!

【語り継がれるべき主のくすしき御業】 ヨシュア4:20

ヨシュアは、ヨルダン川から取ったあの十二の石を
ギルガルに積み上げ、イスラエルの子らに言った。
「後になって、あなたがたの子どもたちが*その父たち
に『この石はどういうものなのですか』と尋ねたとき
には、あなたがたは子どもたちに*『イスラエルは乾い
た地面の上を歩いて、このヨルダン川を渡ったのだ』
と知らせなさい。

* 律法、歴史書の第一の目的は、信仰の継承。

私たちの手元にある、この聖書は、

次代に信仰を継ぐためにこそ、与えられている!!



【同時に刻まれる出エジプト】 ヨシュア4:23～24

あなたがたの神、【主】が、あなたがたが渡り終えるまで、あなたがたのためにヨルダン川の水を涸らしてくださったからだ。このことは、あなたがたの神、【主】が葦の海になさったこと、すなわち、私たちが渡り終えるまで、私たちのためにその海を涸らしてくださったのと同じである。

それは、地のあらゆる民が【主】の手が強いことを知るためであり、あなたがたがいつも、自分たちの神、【主】を恐れるためである。」

体験的に神を知る!! 荒野の学びの実践編こそ、ヨシュア記

覚えられる出エジプト



Ⅱ. 割礼、土地の産物、主の將軍

ヨシュア記5章



誘惑の山から、エリコの街、ヨルダンの平野を臨む

【氣力を失うカナンの人】 ヨシュア5:1

ヨルダン川の反対側、すなわち西側にいるアモリ人のすべての王たちと、海沿いにいるカナン人のすべての王たちは、【主】がイスラエル人の前で、彼らが渡り終えるまでヨルダン川の水を涸らしたことを聞くと、心が萎え、イスラエル人のゆえに氣力を失ってしまった。*

* カナンの諸民族は、連合してイスラエルに決戦を挑む準備もしていたのだろうが...

■ カナンの民が、氣落ちしていたこの間に、主は、イスラエルに、重要な儀式の執行を命じられる。



【割礼】 ヨシュア5:1～3

そのとき、【主】はヨシュアに告げられた。「火打石の小刀を作り、もう一度イスラエルの子らに割礼を施せ。」
ヨシュアは自ら火打石*の小刀を作り、ギブアテ・ハ・アラロテでイスラエルの子らに割礼を施した。

* 鋼鉄片に尖った石英などを打ち合わせて発火する。

➡ 火打ち石を割れば、鋭利な刃物ができる。

■ 人工的な金属の刃ではなく、自然の石から作った。

➡ 神の命令による儀式であることが強調!!

■ 割礼は、アブラハム契約のしるし。

イスラエルの土地もアブラハム契約に基づくもの!!



【不信仰の民】 ヨシュア5:4～5

ヨシュアが割礼を施した理由はこうである。エジプトを出たすべての民のうち男子、すなわち戦士たちはすべて、エジプトを出てから途中で荒野で死んだ。

出て来た民はみな割礼を受けていたが、エジプトを出てから途中で荒野で生まれた民はみな、割礼を受けていなかった。

イスラエルの子らは四十年間荒野を歩き回り、その間に民全体が、すなわちエジプトを出た戦士たち全員が、死に絶えてしまったからである。彼らが【主】の御声に聞き従わなかったので、私たちに与えると【主】が彼らの父祖たちに誓った地、乳と蜜の流れる地を、【主】は彼らには見せないと言われたのである。

不信仰のゆえ、
信仰継承もできず、
旧世代は死に絶えた

新世代に対して、
主ご自身が
割礼を命じられる

【不信仰から転じて、真の主の民に】 ヨシュア5:7～9
そして、息子たちを彼らに代わって起こされた。ヨシュアは彼らに割礼を施したのである。彼らが途中で割礼を受けておらず、無割礼だったからである。

民はみな割礼を受けると、傷が治るまで宿営の自分たちのところにとどまった。

【主】はヨシュアに告げられた。「今日、わたしはエジプトの恥辱をあなたがたから取り除いた。」それで、その場所の名はギルガル*と呼ばれた。今日もそうである。

* ギルガル ...転がす。

■ 不信仰の民は40年の流転の末、ヨルダンを渡り、川底の石を転がし、約束の地へ足を踏み入れた。



【40年ぶりの過越祭】 ヨシュア5:10～12

イスラエルの子らはギルガルに宿営し、その月の十四日の夕方、エリコの草原で過越のいけにえを献げた。

過越のいけにえを献げた翌日、彼らはその地の産物、種なしパンと炒り麦を、その日のうちに食べた。

マナは、彼らがその地の産物を食べた翌日からやみ、イスラエルの子らがマナを得ることはもうなかった。その年、彼らはカナンの地で収穫した物を食べた。

＊ ①出エジプト、②シナイ山、これが三度目の過越祭。

■ 荒野では、祭りに必要な穀類は不足していただろう。

■ 乳のように民を養ってきたマナは、役目を終えた。



【主の前にひれ伏すヨシュア】 ヨシュア5:13～15

ヨシュアがエリコにいたとき、目を上げて見ると、一人
の人*が抜き身の剣*を手にとって彼の前方に立っていた。ヨシュアは彼のところへ歩み寄って言った。「あなたは私たちの味方ですか、それとも敵ですか。」

彼は言った。「いや、わたしは【主】の軍の将*として、今、来たのだ。」ヨシュアは顔を地に付けて伏し拝み、彼*に言った。「わが主は、何をこのしもべに告げられるのですか。」

* 主の軍の将 ...受肉前の子なる神を礼拝したヨシュア

* 主は、先立って戦われ、勝利を収めてくださっている。



【主の前にひれ伏すヨシュア】 ヨシュア5:15

【主】の軍の将はヨシュアに言った。

「あなたの足の履き物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる場所である。」そこで、ヨシュアはそうにした。

■ モーセに、

燃える柴・シャカイナグローリーとして現れた主は、

■ ヨシュアの前に、

子なる神、受肉前のメシアとして現れた。

■ ヨシュアは、すべてを委ね、主を礼拝し、主に信頼した。

➡こうして、エリコの戦いの準備が整った。



Ⅲ. エリコ陥落

ヨシュア記6章



エリコ城壁跡から誘惑の山を臨む

【主の命令】 ヨシュア6:1

エリコはイスラエルの子らの前に城門を堅く閉ざして、
出入りする者はいなかった。

6:2 【主】はヨシュアに告げられた。「見よ、わたしはエ
リコとその王、勇士たちをあなたの手に渡した。

6:3 あなたがた戦士はみな町の周りを回れ。町の周囲
を一周せよ。六日間そのようにせよ。」

* エリコの民の心も、同様にかたくなだっただろう。

* 戦いは主によって決した。

イスラエルは、とどめをさすだけ。

■ 主の戦いの勝利の秘訣は、ただ主に聞き従うこと。



【祭儀として戦いに臨むイスラエル】 ヨシュア6:4～5

七人*の祭司たちは七つの雄羊の角笛*を手にして、
箱の前を進め。七日目*には、あなたがたは七回*、
町の周りを回り、祭司たちは角笛を吹き鳴らせ。

祭司たちが雄羊の角笛*を長く吹き鳴らし、あなたがた
がその角笛の音を聞いたら、民はみな大声でときの
声をあげよ。そうすれば町の城壁は崩れ落ちる。民は
それぞれ、まっすぐに攻め上れ。」

* 完全数の7が徹底 ...完全に神の業であるということ。

* 進軍の銀ラッパ(民10章)ではなく、祭儀用の角笛。

➡これは、戦いというよりむしろ、主に献げる祭儀。



【主の命じられたエリコの戦術】 ヨシュア6:6～9

ヌンの子ヨシュアは祭司たちに呼びかけた。「契約の箱を担ぎなさい。七人の祭司たちは七つの雄羊の角笛を持ち、【主】の箱の前を進みなさい。」

そして民に言った。「進んで行き、町の周りを回りなさい。武装した者たちは【主】の箱の前を進みなさい。」ヨシュアが民にそう言ったとき、七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の前を進み、角笛を吹き鳴らした。【主】の契約の箱はそのうしろを進み、武装した者たちは、角笛を吹き鳴らす祭司たちの前を行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら箱のうしろを進んだ。

戦士たちに挟まれて、戦隊の中心には主の契約の箱が



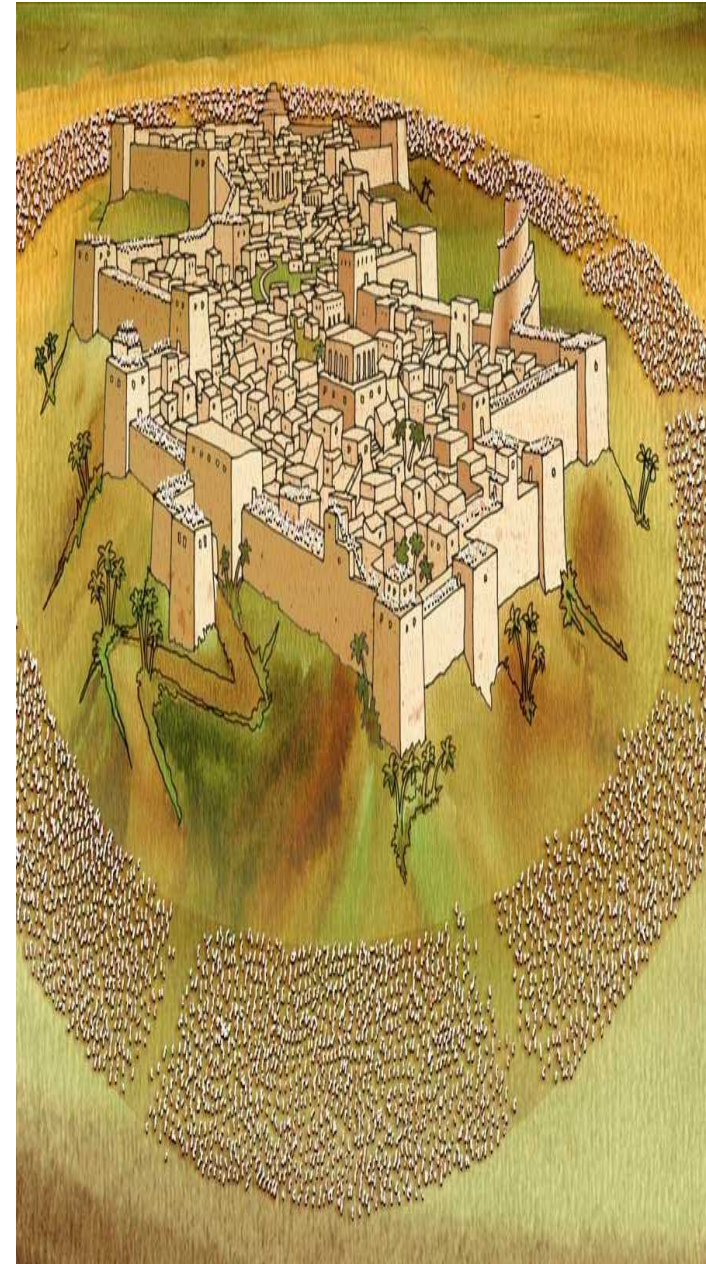
【沈黙の行進】 ヨシュア6:10～14

ヨシュアは民に命じた。「あなたがたはときのをあげてはならない。声を聞かせてはならない。口からことばを出してはならない。『ときのをあげよ』と私が言うその日に、ときのをあげよ。」

こうして【主】の箱は町の周りを回り、その周囲を一周した。彼らは宿営に帰り、宿営で夜を過ごした。

翌朝ヨシュアは早く起き、祭司たちは【主】の箱を担いだ。七人の祭司たちは、七つの雄羊の角笛を持って【主】の箱の前を進み、角笛を吹き鳴らした。武装した者たちは、彼らの先頭に立って行き、しんがりは角笛を吹き鳴らしながら【主】の箱のうしろを進んだ。

彼らは二日目も町の周りを一周回り、宿営に帰った。六日間そのようにした。



【吹き鳴らされる角笛】 ヨシュア6:15～17

七日目、朝早く夜が明けかかるころ彼らは起き、同じようにして町の周りを七周回った。この日だけは町の周りを七周回った。

七周目に祭司たちが角笛を吹き鳴らしたとき、ヨシュアは民に言った。「ときのをあげよ。【主】がこの町をあなたがたに与えてくださったからだ。

この町とその中にあるすべてのものは【主】のために聖絶せよ。遊女ラハブと、その家にともにいる者たちだけは、みな生かしておけ。彼女は私たちが送った使いたちをかくまってくれたからだ。」



【聖絶】 ヨシュア6:18～19

あなたがたは**聖絶**の物には手を出すな。あなたがた自身が聖絶されないようにするため、すなわち、**聖絶**の物の一部を取ってイスラエルの宿営を**聖絶**の物とし、これにわざわいをもたらさないようにするためである。ただし、銀や金、および青銅や鉄の器はすべて【主】のために聖別されたものである。それらは【主】の宝物倉に入れよ。」

■この戦いは、**主の戦い**。神に背き続けたカナンへの**厳正なる裁き**。イスラエルは、ただ道具に過ぎず、戦利品は主のもの。手をつけることは許されない。

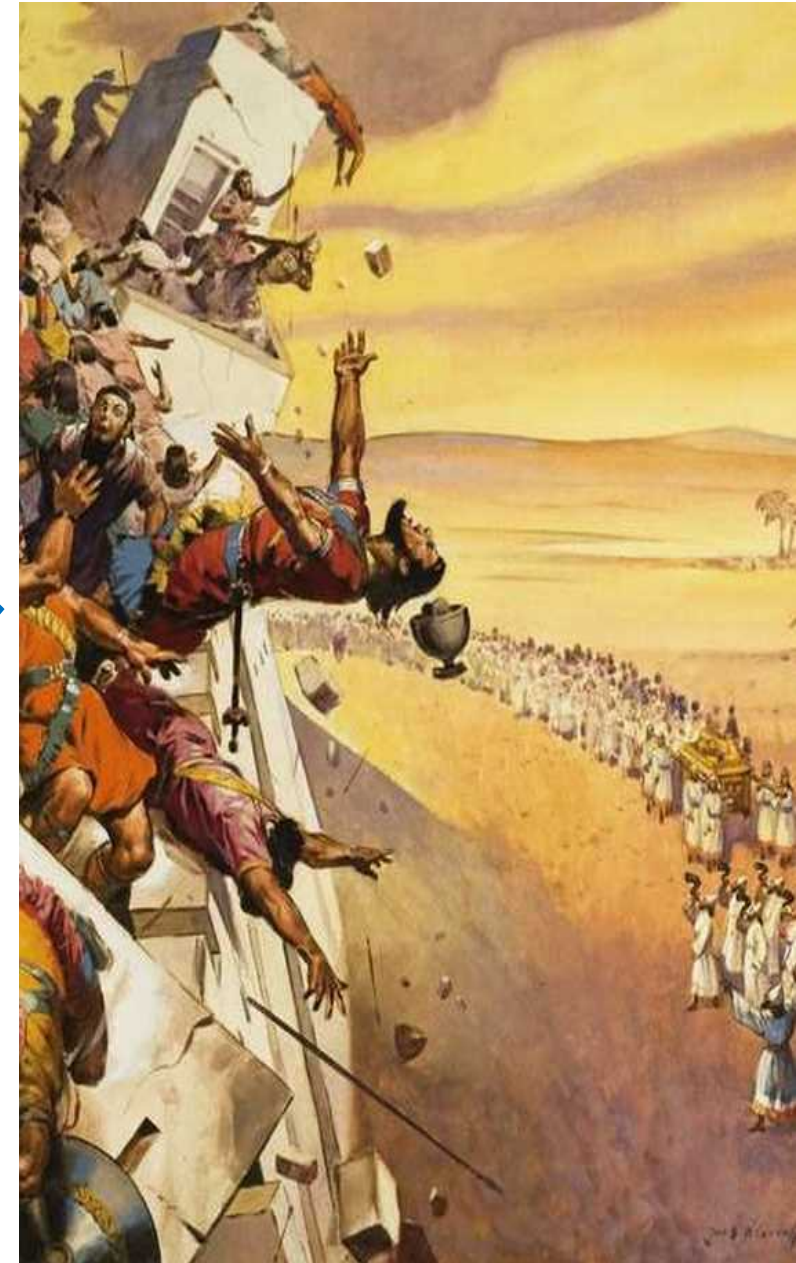


【聖絶】 ヨシュア6:20～21

民はときのをあげ、祭司たちは角笛を吹き鳴らした。角笛の音を聞いて民が大声でときのをあげると、城壁は崩れ落ちた。そこで民はそれぞれ、まっすぐに攻め上り、その町を攻め取り、町のものをすべて、男も女も若者も年寄りも、また牛、羊、ろばも剣の刃で聖絶した。

■鉄壁を誇ったエリコの城壁は、すべて完全に崩壊した。エリコは、完全に聖絶された。

➡間近に主の奇跡を目撃し、なお悔い改めにいたることのなかったエリコの招いた悲劇。



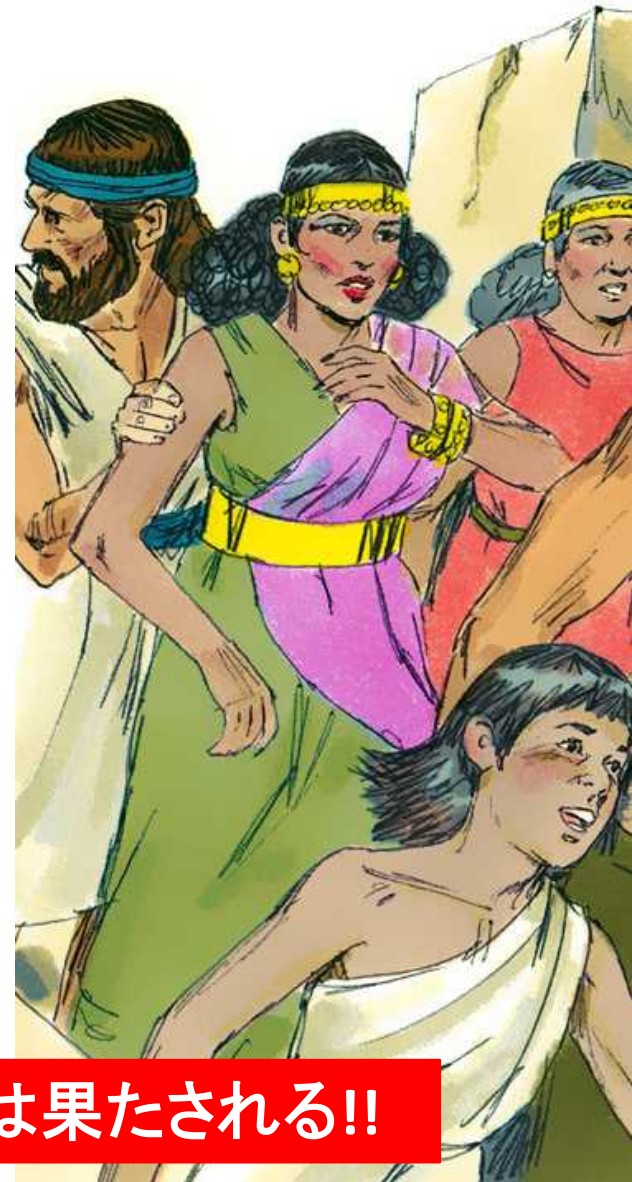
【果たされたラハブへの約束】 ヨシュア6:22～24

ところで、ヨシュアはこの地を偵察した二人の男に言った。「あの遊女の家に行き、あなたがたが彼女に誓ったとおり、その女とその女に連なるすべての者を連れ出さない。」

偵察した若者たちは行って、ラハブとその父、母、兄弟、彼女に連なるすべての者を連れ出した。彼女の親族をみな連れ出し、イスラエルの宿営の外にとどめておいた。

彼らはその町とそこにあるすべてのものを火で焼いた。銀や金、および青銅や鉄の器だけは【主】の家の宝物倉に納めた。

信じる者に、主の救いの約束は果たされる!!



【信者への祝福、不信者への呪い】 ヨシュア6:25～27
しかし、遊女ラハブと、その一族と、彼女に連なるすべての者をヨシュアが生かしておいたので、彼女はイスラエルの中に住んで今日に至っている。エリコを偵察させようとしてヨシュアが送った使いたちを、彼女がかくまったからである。

ラハブはメシアの系図を継ぐ者に!!(マタイ5:5)

ヨシュアは、そのとき誓った。「この町エリコの再建を企てる者は【主】の前にのろわれよ。*その礎を据える者は長子を失い、その門を建てる者は末の子を失う。」

【主】がヨシュアとともにおられたので、彼のうわさはこの地にあまねく広まった。

* 北王国アハブ王の時代に成就(列16:34)

厳密に実施される
アブラハム契約の
祝福と呪いの
付帯条項



まとめと適用

主の戦いを戦うために
求められる一つのこと



【エリコへの戦いへの道筋】

- 契約の箱は、イスラエルに先立ってヨルダン川に入り、川をせき止め、すべてが渡り終わった後に、ヨルダン川を最後に出た。
- イスラエルは、割礼を受け、過越祭を祝い、自らの信仰を整えた。
- 主の軍の将は、拔身の剣で、ヨシュアの前に立った。
イスラエルはただ、命じられた通り、エリコを周るだけだった。
- 主の戦いは、主ご自身が先陣を切られ、しんがりを務められる。
主の戦いは、主ご自身が完全に勝利を収められる。
- 主の戦いにおいて、私たちは、最後の最後に参加するに過ぎない。
にも関わらず、働きに見合わない大きな報酬を与えられる。
それは、御国における、主との永遠の共同統治権。

【主の戦いの主権は、すべて主にあると知ろう】

■ 聖書に記された主の御業を見て、形ばかりマネする人は絶えない。

例) 欲しい土地の周りを七回周るとか...

→これは、むしろ、聖書が咎めていること。

■ 主の奇跡の現われは、毎回異なる。主イエスの癒しや奇跡にも、決まった方法など何もない。大切なのは奇跡ではなく、その意味。

■ エリコの戦いを通してイスラエルが知ったのは、主の戦いの本質。

主が先だってすべてを決し、最後に私たちを遣わされる。

何より求められることは、その都度、主によく聞き、従うこと。

→主に聞き従うことが、主の戦いの勝利の鍵。

【主の戦いに参加していこう。途方もない恵みに預かるために】

■ 多勢とは言え、荒野に宿営するイスラエルは裸同然。

堅固な城壁に囲まれた街々を前に、大きな不安をいだいたことだろう。

■ 世にあっては、私たち信仰者は、荒野の寄留者に過ぎない。

この世には、私たちを守ってくれる城壁などない。

世に頼るなら、私たちの不安は増し加わっていくばかりだろう。

■ 主に聞き従い、信仰の一步を歩みだそう。聖書を学び、福音を告げ知らせていこう。歩みだすなら、必ず与えられていく勝利がある。

すでに勝利された主イエスが、救われるべき魂と出会わせてくださる。

■ 恐れず、主の岩に固く立って、福音を宣言しよう。

私が出会わされたこの魂は、必ず主が勝ち取ってくださると信賴して。

「天のお父さま。

わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したこと、を信じます。

主よあなたが、常(つね)に先だって進(すす)み、
勝利(しょうり)をおさめてくださいます。

どうか、恐(おそ)れることなく、福音(ふくいん)を告(つ)げる者(もの)と
して ここからわたしを遣(つか)わしてください。

ただ主に聞(き)き従(したが)った、ヨシュアのようにしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。

アーメン」